

教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報：

履修課程/プログラム・学修目標・履修の方法

2025年9月

<<博士後期課程>>

国際関係学研究科 国際関係学専攻 博士後期課程

【教育研究上の目的】

博士後期課程では、時代の潮流を見通す長期的なビジョンと多様な価値観を認識・理解できるグローバルな視野を有し、かつ国際社会が抱える広範囲で多様な課題に対して自立して研究活動を行い、また高度に専門的な業務に従事するに必要な研究能力及びその基礎となる豊かな学識を備えた人材を養成することを目的とする。

【カリキュラム】

博士後期の教育課程は、「必修科目」及び「博士論文特別演習（研究指導科目）」の区分により体系的に編成される。必修科目は、博士の学位に相応しい高度な専門知識と学識の修得及び研究遂行能力の醸成を目的とする。博士論文特別演習は、博士論文執筆のための指導を目的とする。

必修科目は、専門分野に応じてクラスター（経済学クラスター、公共経営学クラスター、国際関係学クラスター）毎に開講される。学生は入学時に専門とするクラスターを選択し、その開講科目をクラスターの指定必修科目として履修し、高度な専門知識を修得し、研究遂行能力を醸成する。

博士論文特別演習は、博士論文の指導を行うため、1年次から3年次まで配当される。1年次は、上述の必修科目の履修により高度な専門知識と学識の修得及び研究能力の醸成を目指しつつ、博士論文特別演習Ⅰを履修し、博士論文の指導を受ける。そして1年次に修得した知識と学識及び醸成した研究能力を2年次に配当される博士論文特別演習Ⅱ、3年次に配当される博士論文特別演習Ⅲで更に発展させ、博士論文執筆に取り組む。

【授与する学位】

博士（経済学）、博士（公共経営学）、博士（国際関係学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

○経済学クラスター

博士（経済学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 現実の問題を分析するために必要な、最先端のミクロおよびマクロ経済学の最新の知識
- 実証分析のための、最先端の統計、計量およびその他のデータ分析能力を有し、それを経済問題の分析に応用する能力
- 十分な計量手法に関する知識を有し、それを現実の経済政策の分析評価に用いる能力
- 最新の分析手法を援用し、学術論文を仕上げる能力

スキル

- 経済学の理論的および実証的知識を援用し、重要な現実の経済問題を分析する能力
- 経済問題や経済政策を評価するための経済学の専門能力
- データに基づいた実証分析を行うための数学および統計学の高度な知識
- 経済学の専門的セミナーにおけるプレゼンテーション能力、および政府および民間部門に適切な助言を行う能力
- 重要な経済問題に関して、専門ジャーナルに論文を公表する能力

学術的態度

- 経済および社会問題を独力で論理的かつ創造的に考察する姿勢
- 専門誌を常にフォローし、質の高い研究に関わる知識を習得する姿勢
- 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え
- 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度

○公共経営学クラスター

博士（公共経営学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国や地方政府の基本的な役割や責任への知識
- 公共政策過程における重要な段階についての理解。また、各段階において重要な個人、団体等のアクターの役割についての理解。
- 公共政策における対立・係争を分析する能力。また、政策的な手段を使い、対立・係争を平和的に解決するための手法。
- 公共政策過程における説明責任と、政策や政府運営におけるパフォーマンスについての理解。
- 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGO など政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解。

スキル

- 公共経営、公共政策に係る知識
- 公共経営、公共政策に係る分析的な文章作成スキル
- 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、自分の言葉で要約し、さらに批判的に検討する能力
- 国や地方政府が直面する、公共経営、公共政策に係る問題について、批判的に検討・議論する能力

学術的態度

- 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え。
- 公共政策に係る情報提供や分析に貢献する心構え。
- 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解。

○国際関係学クラスター 博士（国際関係学）

博士（国際関係学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国際関係論内の専攻分野における高度な知識
- 学術的研究における認識論的・方法論的パラダイムの知識

- 国際関係論分野における大学院レベル教育において指導できるのに十分な知識
 - 国際的諸問題を扱うための理論と実践とを繋ぐ全体論的アプローチの知識
- スキル
- 国際諸問題を深く理論的に理解する能力
 - 国際関係論分野の最先端研究領域を切り開く能力
 - 学術的出版物に貢献できる研究を行う能力
 - 学術的誠実さの遂行に知的に専念する能力
- 学術的態度
- 学術的分野のさらなる発展に寄与する姿勢
 - 獲得した知識を将来の研究者を教育するために用いる態度
 - 学術団体を支援する活動に関わる態度
 - 専門的実践家として政策立案分析に関わる姿勢

【主要科目の特長】 研究指導科目の目標

博士論文特別演習Ⅰ

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践・指導を行い、博士論文指導を行う。博士論文特別演習Ⅰでは、先行研究の調査を行ったうえで研究題材を特定化し、研究計画書の作成を中心に指導する。

博士論文特別演習Ⅱ

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行う。特別演習Ⅱでは、研究計画書に沿って論文執筆を指導し、基本的に一篇以上の研究論文を仕上げることが目指す。

博士論文特別演習Ⅲ

経済学、公共経営学もしくは国際関係学に関して、研究の実践、指導を行い、博士論文指導を行う。特別演習Ⅲでは、(原則として)三編の学術論文で構成される学位論文の完成を目指す。

●経済学クラスター履修方法

数理・統計的分析手法を包含した経済学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関その他の組織体において経済開発・経済政策に関連した業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

	秋学期	冬学期	春学期
1年次	◎必修科目 ・マクロ経済学特論	◎必修科目 ・ミクロ経済学特論	◎必修科目 ・計量経済学特論
	◎研究指導 博士論文特別演習 I		
2年次	◎研究指導 博士論文特別演習 II		
3年次	◎研究指導 博士論文特別演習 III		

●公共経営学クラスター履修方法

公共経営学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関で効率的な経営管理などの業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

	秋学期	冬学期	春学期
1年次	◎必修科目 ・政治とガバナンス特論	◎必修科目 ・公共経営学特論	◎必修科目 ・公共政策プロセス特論
	◎研究指導 博士論文特別演習 I		
2年次	◎研究指導 博士論文特別演習 II		
3年次	◎研究指導 博士論文特別演習 III		

●国際関係学クラスター履修方法

安全保障など複雑性を増している国際関係学の高度な研究能力及び専門的な学識を有する研究者又は、そのような研究能力と学識を有し国際機関や行政機関で外交や安全保障政策の立案・執行などの業務に従事する高度専門的職業人を育成します。

	秋学期	冬学期	春学期
1年次	◎必修科目 ・国際関係論の諸理論特論	◎必修科目 ・国際政治経済学特論	◎必修科目 ・国際安全保障特論
	◎研究指導 博士論文特別演習 I		
2年次	◎研究指導 博士論文特別演習 II		
3年次	◎研究指導 博士論文特別演習 III		

<<修士課程>>

1. 国際関係学研究科 国際関係学専攻 修士課程

【教育研究上の目的】

国際関係学研究科は、時代の潮流を見通す長期的なビジョンと多様な価値観を認識し理解できるグローバルな視野を有し、国際社会が抱える広範囲で多様な課題に対して高度な分析能力と問題解決能力を発揮できるプロフェッショナルを養成することを教育研究上の目的とする。

目的に応じ、修士課程では、学生の履修課程（国際関係学プログラム、国際開発学プログラム、公共経営・政策分析プログラム、日本・グローバル開発学プログラム、国際公共政策プログラム）を編成しています。

●国際関係学プログラム（IRP）

【授与する学位】 修士（国際関係学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（国際関係学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国家の外交及び安全保障政策についての基礎的な知識
- グローバルな政治経済学と国際経済秩序システムの知識
- 国際紛争解決に役立つ道具・方法・手段に必要な知識
- 諸国家間での行為における人権と正義についての知識

スキル

- 国際関係論分野の基礎的知識を明示する能力
- 国際関係の動態を理解する能力
- 国際関係諸問題を学術的・批判的に分析する能力
- 国際関係諸問題についての政策議論に参加・意見交換する能力

学術的態度

- 政策分析と評価における学際的なアプローチを取る態度
- 国際社会の平和・安定・発展へ寄与する姿勢
- 政策立案に際し知的に刺激的で創造性に富むアイデアを展開する態度
- 政府・外交・国際ビジネス・非政府組織・国際機関での活躍に必要な能力と知識を装備

【履修の方法】

学位		修士（国際関係学）	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 比較政治論 ・ 対外政策決定論 ・ 国際関係史 ・ 国際人権論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際機構論 ・ 国際政治経済論 ・ 国際政治学 ・ 政治理論
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・ 開発政策・プログラムの分析 ・ 外交と国家 ・ 基礎経済学 ・ 国際政治経済史 ・ 国際紛争処理と平和構築 ・ 国際法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 質的研究方法論 ・ リサーチ方法論 ・ 質的研究方法論 ・ 安全保障と戦略: 国家と国際関係からの視点
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	10 単位	履修推奨科目 <ul style="list-style-type: none"> ・ アメリカ対外政策論 ・ 中国外交論 ・ 現代世界政治論 ・ 実践的国際法 ・ 日本の国際関係と外交政策 ・ ユーラシアにおける国際関係 ・ アフリカ開発の課題 ・ 日本の開発協力の実践 ・ 日本政府と政治 ・ 日本の国際協力政策 ・ 地方自治体と公共サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の中の近代日本 ・ 政治制度とガバナンス ・ 日本近代化の政治経済史 ・ 戦後の日本政治 ・ 行政学 ・ 公共セクターの人的資源管理論 <p>上記の他、全開講科目より選択可。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。</p>
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

【授与する学位】 修士（政治学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（政治学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 政治学の分野で使用される諸方法論についての知識
- 行政、公共サービス、地方自治体、政治制度とその比較、などのガバナンスにおける基礎的な知識
- 政治学の諸分野（比較政治、外交政策、国際法、国際政治、政治経済学、政治理論など）における基礎的な知識
- 特定のテーマや地域に関する政治学やその関連分野における諸問題についての知識

スキル

- 政治学分野の基礎的知識を明示する能力
- 政治学の複雑な諸問題を理解する能力
- 政治学諸問題を学術的・批判的に分析する能力
- 政治学諸問題についての政策議論に参加・意見交換する能力

学術的態度

- 政策分析と評価における学際的なアプローチを取る態度
- 平和で安定した政治制度の発展へ寄与する姿勢
- 政策立案に際し知的に刺激的で創造性に富むアイデアを展開する態度
- 政府・外交・国際ビジネス・非政府組織・国際機関での活躍に必要な能力と知識を装備

【履修の方法】

学位		修士（政治学）	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・応用計量経済学 ・比較政治論 ・地方自治体と公共サービス ・政治制度とガバナンス 	<ul style="list-style-type: none"> ・政治理論 ・行政学 ・リサーチ方法論 ・統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・外交と国家 ・対外政策決定論 ・国際関係史 ・国際人権論 ・国際法 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際機構論 ・国際政治経済論 ・国際政治学 ・安全保障と戦略：国家と国際関係からの視点
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	10 単位	履修推奨科目 <ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ対外政策論 ・開発政策・プログラムの分析 ・中国外交論 ・国際政治経済史 ・実践的国際法 ・日本の国際関係と外交政策 ・ユーラシアにおける国際関係 ・アフリカ開発の課題 ・日本の開発協力の実践 ・日本政府と政治 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の国際協力政策 ・世界の中の近代日本 ・日本近代化の政治経済史 ・戦後の日本政治 ・公共セクターの人的資源管理論 ・質的研究方法論 <p>上記の他、全開講科目より選択可。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。</p>
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

●国際開発学プログラム（IDP）

【授与する学位】 修士（経済学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（経済学）の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 現実の問題を分析するために必要な、ミクロおよびマクロ経済学の高度な知識
- 実証分析のための、統計、計量およびその他のデータ分析能力
- 学際的な知識を尊重し、経済学がいかにか他の社会科学と関連しているかを認識する能力
- 最新の研究成果を経済問題の分析に応用する能力

スキル

- 経済学の概念を応用し、現実の経済的および社会的問題に経済学を適用する能力
- 経済問題や経済政策を分析するための戦略的思考能力
- データに基づいた実証分析を行うために必要とされる数学および統計学の知識
- 経済問題に対する適切な助言を政府および民間部門に行うことができるコミュニケーション能力
- あらゆる状況下でチームの一員として協力的に行動する能力

学術的態度

- 経済および社会問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ
- 経済および社会問題を理解するために、適切な分析力を適応する姿勢
- 常に政策評価および政策形成に貢献する心構え
- 経済問題の理解を助けるため他分野の専門性を尊重する態度
- 経済学の知識を現実の経済問題の解決に用いる姿勢

【履修の方法】

学位		修士（経済学）	
科目区分		科目名	
必修科目 20 単位	基礎科目 14 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済経営数学 ・ ミクロ経済学 I：価格理論 ・ ミクロ経済学 II：戦略的行動と情報分析 ・ マクロ経済学 I：所得理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学 II：景気循環と成長理論 ・ 統計学 ・ 計量経済学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 8 単位または 12 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・ マクロ経済学セミナー ・ 農業開発と資源収入管理 ・ 開発政策・プログラムの分析 ・ 費用便益分析 ・ クロスセクション・パネルデータ分析 ・ データ分析と機械学習 ・ 開発経済学 ・ 開発政策とグローバル化 ・ 環境・医療経済学 ・ 進化する開発パラダイムと援助の変遷 ・ 金融市場と金融規制 ・ グローバルマーケットセミナー ・ 産業組織論と政策分析 ・ 所得格差と貧困：測定と応用 ・ 制度・戦略的行動と経済発展 ・ 国際金融論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際貿易論 ・ アフリカ開発の課題 ・ 日本の国際協力政策 ・ 日本の教育システム ・ 労働経済学 ・ マクロ経済モデル分析 ・ 上級マクロ経済学：政策分析 ・ 金融経済論と政策分析 ・ 開発途上国の金融政策 ・ 政策評価論 ・ 財政学 ・ 公的予算と財務 ・ リサーチ方法論 ・ 経済開発における政府と起業家の役割 ・ 時系列分析
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	10 単位	全開講科目より選択可。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

【授与する学位】 修士（国際開発学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士(国際開発学)の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 経済学、公共経営学、国際関係学における高度な知識
- 地域、国およびグローバルなレベルでの開発問題を識別する能力
- 習得した知識を応用して開発問題を分析する能力
- 開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力
- 政策策定に影響力のある政策担当者に経済改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝える能力

スキル

- 地域、国およびグローバルなレベルでの価値観や制度の多様性を適切に理解し、開発のための実践的リーダーとして行動する能力
- 経済学、公共経営学および国際関係学の理論を援用し、開発問題を適切に分析する能力
- 詳細な分析を通じて開発問題に対する実現可能な解決策を導き出す能力
- 現実の経済改革を推進するため、政策担当者、アカデミア、市民団体を含むすべての利害関係者と連携し、改革の主要内容を分かりやすく簡潔に伝えることができる能力
- 開発の専門家としての視野を広げるため、他分野の専門性を尊重し、学際的なチームで働くことができる能力

学術的態度

- 開発問題を論理的かつ創造的に考察する情熱とイニシアティブ
- 常に最新の研究動向を理解し、高い分析能力を維持する姿勢
- 現実の経済改革に貢献するという強い心構え
- 他分野の専門性を尊重する態度
- 開発の現場での多様な価値観や制度を尊重する姿勢

【履修の方法】

学位		修士（国際開発学）		
科目区分		科目名		
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・開発経済学 ・計量経済学 ・国際貿易論 ・ミクロ経済学 I：価格理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミクロ経済学 II：戦略的行動と情報分析 ・マクロ経済学 I：所得理論 ・マクロ経済学 II：景気循環と成長理論 ・統計学 	
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III		
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・マクロ経済学セミナー ・農業開発と資源収入管理 ・開発政策・プログラムの分析 ・費用便益分析 ・クロスセクション・パネルデータ分析 ・データ分析と機械学習 ・開発政策とグローバル化 ・環境・医療経済学 ・進化する開発パラダイムと援助の変遷 ・金融市場と金融規制 ・グローバルマーケットセミナー ・産業組織論と政策分析 ・所得格差と貧困：測定と応用 ・制度・戦略的行動と経済発展 ・国際金融論 	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ開発の課題 ・日本の国際協力政策 ・日本の教育システム ・労働経済学 ・マクロ経済モデル分析 ・上級マクロ経済学：政策分析・経済数学と数値計算 ・金融経済論と政策分析 ・開発途上国の金融政策論 ・政策評価論 ・財政学 ・公的予算と財務 ・経済開発における政府と起業家の役割 ・リサーチ方法論 ・時系列分析 	
		選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修
		10 単位	全開講科目より選択可。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート				

●公共経営・政策分析プログラム (PMPP)

【授与する学位】 修士 (公共経営学)

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士 (公共経営学) の学位課程では、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 国や地方政府の基本的な役割や責任への知識
- 公共政策過程における重要な段階についての理解。また、各段階において重要な個人、団体等のアクターの役割についての理解。
- 公共政策における対立・係争を分析する能力。また、政策的な手段を使い、対立・係争を平和的に解決するための手法。
- 公共政策過程における説明責任と、政策や政府運営におけるパフォーマンスについての理解。
- 公共セクターにおける管理職や政策アナリストが果たす役割についての理解。
- 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGO など政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解。

スキル

- 公共経営、公共政策に係る知識
- 公共経営、公共政策に係る分析的な文章作成スキル
- 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、自分の言葉で要約し、さらに批判的に検討する能力
- 政府内での政策形成過程や市民との討議で必要とされる、議論を有効かつ円滑に進めるスキル (いわゆるグループファシリテーション)
- 公共経営、公共政策について、プレゼンテーションをはじめとする人前で論理的に話すスキル
- 国や地方政府が直面する、公共経営、公共政策に係る問題について、批判的に検討・議論する能力

学術的態度

- 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え。
- 公共政策に係る情報提供や分析に貢献する心構え。
- 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解。

【履修の方法】

学位		修士 (公共経営学)	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用計量経済学(または計量経済学) ・ 政策分析入門 ・ 公共組織経営 ・ ミクロ経済学 I : 価格理論 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政学 ・ 公的予算と財務 ・ 公共政策プロセス ・ 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政学-アジアの視点から- ・ 費用便益分析 ・ 情報政策管理 ・ 政策モデリング入門 ・ 日本政府と政治 ・ 公的部門のリーダーシップ ・ 地方自治体と公共サービス ・ マクロ経済学 I : 所得理論 ・ 経済数学と数値計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パフォーマンス・マネージメント ・ 政策評価論 ・ 政治制度とガバナンス ・ 公共セクターの人的資源管理論 ・ 公共組織論 ・ 質的研究方法論 ・ リサーチ方法論 ・ サーベイ・データ分析
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	10 単位	全開講科目より選択可。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

【授与する学位】 修士（公共政策学）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（公共政策学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 公共政策学の基礎的な理論についての知識
- 公共政策学の研究で使用されている研究手法についての知識
- 公共政策過程における重要な段階についての知識
- 国や地方政府の基本的な役割や責任についての理解
- 公共セクターにおける管理職や政策アナリストが果たす役割についての理解
- 公共政策過程や公共セクターの経営において、NGO など政府以外の個人、団体等が果たす役割についての理解
- 公共政策過程における ICT の役割についての理解

スキル

- 公共経営、公共政策に係る知識
- 公共経営、公共政策の学術研究を理解し、批判的に検討する能力
- 公共政策学の学術的知見を応用して、現実社会における問題を解決・分析する能力
- データ収集と計量分析を遂行する能力
- データを収集・分析して、政策提言を行う能力
- 公共経営、公共政策について、プレゼンテーションをはじめとする、人前で論理的に話すスキル

学術的態度

- 学際的な立場から、公共政策過程を分析する心構え
- 学術的な立場から、自主的に研究を遂行する心構え
- 公共サービスの観点から、公共経営や公共政策の諸問題について検討する心構え
- 公共経営、公共政策過程における倫理的な諸問題についての理解

【履修の方法】

学位		修士（公共政策学）	
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 費用便益分析 ・ 計量経済学（または応用計量経済学） ・ 政策分析入門 ・ 政策モデリング入門 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ミクロ経済学 I：価格理論 ・ 政策評価論 ・ 公共政策プロセス ・ 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 6 単位または 10 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政学-アジアの視点から- ・ 産業組織論と政策分析 ・ 情報政策管理 ・ 日本政府と政治 ・ 公的部門のリーダーシップ ・ 地方自治体と公共サービス ・ マクロ経済学 I：所得理論 ・ 公共組織経営 ・ 経済数学と数値計算 	<ul style="list-style-type: none"> ・ パフォーマンス・マネジメント ・ 行政学 ・ 公的予算と財務 ・ 政治制度とガバナンス ・ 公共セクターの人的資源管理論 ・ 公共組織論 ・ 質的研究方法論 ・ リサーチ方法論 ・ サーベイ・データ分析
選択科目 12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	10 単位	全開講科目より選択可。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

●国際公共政策プログラム（IPPP）（1年制コース）

【授与する学位】 修士（国際公共政策）

【修得すべき知識・能力】 <学修目標>

修士（国際公共政策）の学位課程では、それぞれの専攻に応じて、以下のスキル、知識、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

知識

- 外交・安全保障政策または公共政策の基本概念を修得すること。
- 国際政治・経済の基本的な枠組みとシステムを理解すること。
- 国際間の紛争やさまざまな国内問題の解決のための政策手段について理解を持つこと。
- 国際間の問題及び国内問題のいずれに対処するにあたって重要な人権や世界で共有されている諸概念について十分な理解を持つこと。

スキル

- 国際関係または公共政策において基本的に重要な知識を活用できること。
- 国際関係と国内政策の実施に係るさまざまなダイナミズムを理解する能力を持つこと。
- 国際関係と国内政策に関連する諸問題を、学問的知見に依拠しつつ分析する能力を持つこと。
- 国際公共政策に関するさまざまな議論・知的交流に参画するに足る能力を持つこと。

学術的態度

- 政策分析及び評価において、幅広い学際的なアプローチをとる視点を持つこと。
- 国際社会の平和・安定・発展に対して貢献しようとする意志があること。
- 公共政策の立案において、常に知的刺激に満ちた革新的なアイデアを生み出そうとする姿勢を持つこと。

【プログラムの特徴】

国際公共政策プログラムは、国際大学が国際協力機構（JICA）との連携事業として設置した1年制ミッドキャリア・プログラムであり、アジア・太平洋州をはじめとする世界各国の若手・中堅外交官や政府省庁職員などを対象としています。

学生はそれぞれのバックグラウンドと将来のキャリア・プランに応じて、「国際問題」もしくは「公共政策」いずれかのコンセントレーションを選択します。国際関係論や公共政策学の基本を中心に学ぶと同時に、それぞれの専門分野と関心に応じて、大学が提供する幅広い科目から選択的に履修する機会が与えられます。学生は、それまでに蓄積してきた実務経験を振り返って体系的に見直し、深めることとなります。また、最終学期にあたる夏季期間には集中講義が用意されており、そこでは、世界経済・政治・環境がこれからどう移り変わっていくのかなどといった問題について、長期的・歴史的・多面的に考え、議論する機会を与えられます。

【履修の方法】

学位		修士（国際公共政策）	
コンセントレーション		国際問題	公共政策
科目区分		科目名	
選択必修 科目 12 単位	基礎科目 10 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際人権論 ・ 国際機構論 ・ 国際政治学 ・ 政策分析入門 ・ ミクロ経済学 I：価格理論 ・ 公共政策プロセス ・ 安全保障と戦略：国家と国際関係からの視点 ・ 統計学 	《夏季キャップストーンコース》 <ul style="list-style-type: none"> ・ 新時代の地政学 ・ 資本主義の行方 ・ 現代中国論
	特別演習 2 単位	リサーチ・セミナー I、II	
選択必修 科目 6 単位	専門基礎科目	（国際問題コンセントレーション） <ul style="list-style-type: none"> ・ 比較政治論 ・ 外交と国家 ・ 対外政策決定論 ・ 国際政治経済史 ・ 国際関係史 ・ 基礎経済学 ・ 国際紛争処理と平和構築 ・ 国際法 ・ 国際政治経済論 ・ 政治理論 ・ 質的研究方法論 	（公共政策コンセントレーション） <ul style="list-style-type: none"> ・ 行政学-アジアの視点から ・ 応用計量経済学または計量経済学 ・ 費用便益分析 ・ 情報政策管理 ・ 政策モデリング入門 ・ 公的部門のリーダーシップ ・ 地方自治体と公共サービス ・ 公共組織経営 ・ 政治制度とガバナンス ・ 公共セクターの人的資源管理論 ・ 公共組織論 ・ 質的研究方法論
		選択科目 14 単位	語学科目を除く全開講科目より選択可。
修了要件単位数 32 単位及び研究レポート			

2. 国際関係学研究科・国際経営学研究科修士課程共通プログラム

●日本・グローバル開発学プログラム (JGDP)

【プログラムの目的】

JGDP は国際関係学研究科の修士課程と国際経営学研究科の修士課程に本学が初めて共通の履修課程として導入する国際人材育成プログラムです。日本の経済発展と企業成長を基礎材料として、普遍性のある発展と成長の論理を政治・経済・経営の分野にまたがって学びます。

【授与する学位】

専門分野	外交政策	経済政策	開発政策	公共経営	経営
学位	修士 (国際関係学)	修士 (経済学)	修士 (国際開発学)	修士 (公共経営学)	修士 (経営学)

【対象となる方・学習目標】

1. 留学生が、日本の経済発展の背後にある経験から論理と教訓 (成功例、失敗例の両面) について学び、自国の経済発展戦略を考えるための知識とスキルを修得する。
2. 日本人が、英語で日本の歴史・文化、経済発展の論理や教訓を学ぶことにより、グローバルな視点から自国を海外へ発信する能力を養う。
3. 将来国際場で活躍する学生が、日本の経験をケース材料として、経済発展と企業成長の普遍的論理について学ぶ。

【カリキュラム】

国際関係学研究科の日本型開発学プログラム (JGDP-IR) が開講する JGDP 関連科目では、主に日本の明治維新以降における国際政治経済環境や戦後日本経済の成長の特徴について教育し、さらに日本の外交政策、安全保障、対外支援政策、財政と行政、教育システムが日本の発展にどのように影響を与えたかについて、教育が行われます。

国際経営学研究科の日本型開発学プログラム (JGDP-IM) が開講する JGDP 関連科目では、明治維新以降の日本の産業発展とその背後のイノベーション、日本型経営論、企業金融とそれを支える金融システム、日本型雇用慣行と人的資本の蓄積、ものづくり経営、中小企業の発展、企業リーダーなどが日本の経済発展に与えた影響について教育が行われます。

これらの JGDP 関連科目では、理論的基礎と国際比較の視点を重視した内容が提供されます。

【履修の方法（専門分野：外交政策及び公共経営）】

研究科		国際関係学研究科（GSIR）	
専門分野(Concentration)		外交政策	公共経営
学位		修士（国際関係学）	修士（公共経営学）
科目区分		科目名	
必修科目 22 単位	基礎科目 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> 比較政治論 対外政策決定論 国際関係史 国際人権論 国際機構論 国際政治経済論 国際政治学 政治理論 	<ul style="list-style-type: none"> 応用計量経済学(または計量経済学) 政策分析入門 公共組織経営 ミクロ経済学Ⅰ：価格理論 行政学 公的予算と財務 公共政策プロセス 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
選択必修 科目 8 単位または 12 単位	JGDP 関連 科目 (GSIR 提供 科目)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国際関係と外交政策 日本の開発協力の実践 日本政府と政治 日本の国際協力政策 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の教育システム 世界の中の近代日本 日本近代化の政治経済史 戦後の日本政治
	JGDP 関連 科目 (GSIM 提供 科目)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農業ビジネスと農政 エネルギー政策とビジネスリーダーシップ 日本の主要産業と人事手法 	<ul style="list-style-type: none"> 日本的経営と企業統治 日本のものづくり経営 日本の中小企業
選択科目 10 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	8 単位	全開講科目より選択可。語学科目については2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

【履修の方法（専門分野：経済政策及び開発政策）】

研究科		国際関係学研究科（GSIR）	
専門分野(Concentration)		経済政策	開発政策
学位		修士（経済学）	修士（国際開発学）
科目区分		科目名	
必修科目 20-22 単位	基礎科目 14-16 単位	<ul style="list-style-type: none"> 経済数学と数値計算 ミクロ経済学Ⅰ：価格理論 ミクロ経済学Ⅱ：戦略的行動と情報分析 マクロ経済学Ⅰ：所得理論 マクロ経済学Ⅱ：景気循環と成長理論 統計学 計量経済学 	<ul style="list-style-type: none"> 開発経済学 国際貿易論 計量経済学 ミクロ経済学Ⅰ：価格理論 ミクロ経済学Ⅱ：戦略的行動と情報分析 マクロ経済学Ⅰ：所得理論 マクロ経済学Ⅱ：景気循環と成長理論 統計学
	特別演習 6 単位	特別演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
選択必修 科目 8 単位または 12 単位	JGDP 関連 科目 (GSIR 提供 科目)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国際協力と外交政策 日本の開発協力の実践 日本政府と政治 日本の国際協力政策 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の教育システム 世界の中の近代日本 日本近代化の政治経済史 戦後の日本政治
	JGDP 関連 科目 (GSIM 提供 科目)	<ul style="list-style-type: none"> 日本の農業ビジネスと農政 エネルギー政策とビジネスリーダーシップ 日本の主要産業と人事手法 	<ul style="list-style-type: none"> 日本的経営と企業統治 日本のものづくり経営 日本の中小企業
選択科目 10-12 単位	2 単位	国際経営学研究科開講科目から履修	
	8-10 単位	全開講科目より選択可。語学科目については2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

【履修の方法（専門分野：経営）履修の方法】

研究科		国際経営学研究科（GSIM）	
学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 21 単位	基礎科目 15 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の社会的責任（CSR）論 ・ 財務会計学 ・ 国際経営 ・ 日本的経営と企業統治 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マーケティング・マネジメント ・ オペレーションズ・マネジメント ・ 組織行動論 ・ 経営戦略
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修 科目 6 単位または 10 単位	JGDP 関連 科目 (GSIM 提供科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の農業ビジネスと農政 ・ エネルギー政策とビジネスリーダーシップ ・ 日本の主要産業と人事手法 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本のものづくり経営 ・ 日本の中小企業
	JGDP 関連 科目 (GSIR 提供科目)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の国際関係と外交政策 ・ 日本の開発協力の実践 ・ 日本政府と政治 ・ 日本の国際協力政策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の教育システム ・ 世界の中の近代日本 ・ 日本近代化の政治経済史 ・ 戦後の日本政治
選択科目 13 単位	2 単位	国際関係学研究科開講科目から履修	
	11 単位	全開講科目より選択可。語学科目については2単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位と学位論文 または 44 単位と研究レポート			

【修得すべき知識・能力】 <学修の目標と目的>

日本・グローバル開発学プログラム（専門分野：経営）では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力</p> <p>本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点(ときに相対立している場合もある)を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識</p> <p>本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる ■ 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる

<p>リーダーシップ</p> <p>本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>経営における分野別の専門知識</p> <p>本学の学生は世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかにかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を修得している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 財務論に関して十分な理解を有していることをしめることができる ■ 情報技術とオペレーション/サプライチェーン・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ マーケティング論に関して十分な理解を有していることをしめることができる ■ 会計学に関して十分な理解を有していることをしめることができる
<p>日本的経営およびその論理的背景の理解</p> <p>本学の学生は、日本的経営およびその論理的背景を、さまざまな視点から理解している。視点の例としては雇用慣行、企業統治、および製造管理技術が含まれる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 日本の諸産業および特に製造に関する戦略への理解を有していることを示すことができる ■ 日本の雇用慣行・雇用制度に関する理解を有していることを示すことができる ■ 日本企業における企業統治のあり方と経営理念の紅葉に関する理解を有していることを示すことができる ■ 日本の社会やビジネス環境への理解を有していることを示すことができる

3. 国際経営学研究科 国際経営学研究科専攻

【教育研究上の目的】

国際経営学研究科は、特に新興国の発展に寄与することに重点を置き、グローバル・ビジネスと社会的リーダーシップのための「賢明な」（すなわち社会的責任への使命感を持つ）人材を養成することを目的としている。

この目的の二つの重要な要素として、社会的責任（SR）とグローバル・ビジネス（GB）に対する能力醸成がある。国際経営学研究科はこの目的達成に向け、募集活動、就職サポート、教育・研究・業務など様々な分野において革新的施策を実践していく。

国際経営学研究科の目的における SR は、研究科もその修了生も経済的利益のみに捉われず、社会的価値創出に対する使命感をもって活動すべきであるという信念に基づいている。

国際経営学研究科は、SR について主に以下の事柄に重点を置く。

- ステークホルダーである、日本企業、政府機関、地域社会等の社会的責任に対する施策を支援する
- 特にアジア、アフリカの新興国からの留学生のニーズに配慮しつつ、学生が社会的責任に対する使命感を持った指導者となるよう、教育活動を展開する。

●MBA プログラム

【授与する学位】 修士（経営学）

【修得すべき知識・能力】 <学修の目標と目的>

MBA プログラム（2年制）は、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力 本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識 本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる。
<p>リーダーシップ 本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>問題解決能力 本学の学生は、置かれた特定の状況について得られたインプットを分析・理解し、適切な情報の分析評価のもとに確信の形成と最適解の選択を行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 重要課題（イシュー）を定式化・定義する能力を示すことができる ■ 必要に応じて多様な分析や計算を行うことができる ■ 特定の概念やデータを適切に解釈する能力を示すことができる ■ 複数の意思決定上の選択肢を比較評価し、最適と思われる選択を行うことができる
<p>経営における分野別の専門知識 本学の学生は世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 総合経営論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 財務論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 情報技術とオペレーション・マネジメントに関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ マーケティング論に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ 会計学に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■ デジタル分析とデジタル技術に関して十分な理解を有していることを示すことができる

【履修の方法】

学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 25 単位	基礎科目 19 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・企業財務 ・企業の社会的責任（CSR）論 ・データ分析によるビジネス支援 ・財務会計学（又は財務諸表の理解） ・国際経営 	<ul style="list-style-type: none"> ・管理会計学 ・マーケティング・マネジメント ・オペレーションズ・マネジメント ・組織行動論 ・経営戦略
	特別演習 6 単位	特別演習 I、II、III	
選択必修科目 11 単位または 15 単位		<ul style="list-style-type: none"> ・ Python によるデータ分析 ・ インターナショナル・キャリア開発* ・ 応用計量経済学 ・ 官民における DX の実践 ・ 機会学習とビジネスにおけるテキスト分析 ・ 起業家精神とイノベーション ・ クロスセクション・パネルデータ分析 ・ 計量経済学 ・ 広告戦略 ・ 交渉戦略* ・ サービス・マネジメント ・ サステイナブルファイナンスと投資 ・ 消費者行動 ・ 新規事業創出とベンチャー ・ 新興市場戦略論 ・ 製品革新と開発戦略 ・ データ管理とモデリング ・ データドリブン組織 ・ デジタル・ディストラクションの戦略論 ・ デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント ・ デジタルサプライチェーンマネジメント ・ デジタル時代のグローバル戦略* ・ デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル ・ デジタルマーケティング ・ 日本社会のデジタル・トランスフォーメーション 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスのための人工知能 ・ ビッグデータ分析 ・ ファイナンスとフィンテック ・ ポートフォリオ・マネジメント ・ マーケティング・インテリジェンス ・ マーケティング・リサーチ ・ リーダーシップ ・ リーダーシップ・ブートキャンプ* ・ リサーチ方法論 ・ リスク・マネジメント ・ 基礎経済学 ・ 起業とベンチャーファイナンス ・ 起業家精神と小事業開発 ・ 技術革新とデジタルの時代における企業戦略論 ・ 顧客関係管理（CRM） ・ 公共組織経営 ・ 国際金融論 ・ 財務諸表と経営分析 ・ 情報政策管理 ・ 人的資源管理とタレント・マネジメント ・ 戦略シミュレーション ・ 日本の中小企業 ・ 日本のものづくり経営 ・ 日本の主要産業と人事手法 ・ 日本的経営と企業統治
選択科目 4 単位	2 単位	国際関係学研究科開講科目から履修	
	2 単位	全開講科目より選択可。語学科目については 2 単位まで修了要件にカウント可。	
修了要件単位数 40 単位及び学位論文 または 44 単位及び研究レポート			

●MBA1 年制プログラム（IMBA）（1 年制コース）

【授与する学位】 修士（経営学）

【修得すべき知識・能力】 <学修の目標と目的>

MBA 1 年制プログラムは、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力 本学の学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識 本学の学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる ■ 社会的責任を全うする会社組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる
<p>リーダーシップ 本学の学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>戦略的意思決定 本学の学生は、社会およびビジネスに関する多様性を適切に評価解釈し、それに基づいた戦略的な決定を下す能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 組織内外の戦略的状況・文脈を的確に読み取り、戦略的経営のコンセプトを適用・体現することができる ■ データ・情報を収集し適切な解釈を与えることができる ■ 顕著な重圧の元においても、戦略的意思決定を下すことができる

【履修の方法】

学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 16 単位	基礎科目 11 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の社会的責任（CSR）論 ・財務会計学 ・国際経営 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織行動論 ・経営戦略 ・デジタル・ディスラプションの戦略論
	キャップストーン 3 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーシップ・ブートキャンプ ・戦略シミュレーション ・インターナショナル・キャリア開発 	
	特別演習 2 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・リサーチ・セミナー I、II 	
選択必修科目 8 単位	財務・会計 2 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・企業財務 ・起業とベンチャーファイナンス ・ファイナンスとフィンテック ・財務諸表と経営分析 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械学習とビジネスにおけるテキスト分析 ・ポートフォリオ・マネジメント ・リスク・マネジメント ・サステナブルファイナンスと投資
	マーケティング 2 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・広告戦略 ・消費者行動 ・顧客関係管理（CRM） 	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング・マネジメント ・マーケティング・インテリジェンス ・マーケティング・リサーチ
	マネジメント 2 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・日本のビジネスリーダー ・新興市場戦略論 ・技術革新とデジタルの時代における企業戦略論 ・Python によるデータ分析 ・起業家精神とイノベーション ・デジタル時代のグローバル戦略 ・人的資源管理とタレント・マネジメント ・日本の雇用慣行と人的資本の蓄積 ・日本的経営と企業統治 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の主要産業と人事手法 ・日本のものづくり経営 ・リーダーシップ ・交渉戦略 ・新規事業創出とベンチャー ・オペレーションズ・マネジメント ・サービス・マネジメント ・サステナビリティ・トランスフォーメーション戦略 ・エネルギー転換の実装と挑戦 ・ビジネスに役立つ意思決定と業績評価
	テクノロジー 2 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスのための人口知能 ・ビッグデータ分析 ・データ分析によるビジネス支援 ・データドリブン組織 ・データ管理とモデリング ・デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル・サプライ・チェーン・マネジメント ・デジタルビジネスの倫理法・社会的諸側面 ・デジタルトランスフォーメーションのマネジメント ・スマートシティ
選択科目 8 単位		語学科目を除く全開講科目より選択	
修了要件単位数 32 単位及び研究レポート			

【主要科目の特長】

キャップストーン科目の目標

IMBA 独自のキャップストーン・コースは、プログラムの集大成として、プログラム最終学期にあたる夏季期間に開講される必修科目で、インターナショナル・キャリア開発、リーダーシップ・ブートキャンプ、戦略シミュレーションの3科目（各1単位、計3単位）が提供されます。キャップストーン・コースでは、科目の履修をとおしてそれまでに獲得した知識・理論を活用し、経営課題の解決策について議論します。

●デジタルトランスフォーメーションプログラム（DXP）（1年制コース）

【授与する学位】 修士（デジタル経営学）

【修得すべき知識・能力】 <学修の目標と目的>

修士（デジタル経営学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>社会的責任意識 学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる ■ 社会のおよびビジネス的価値の創造における社会的責任に対してテクノロジーがもつ意味を理解できる
<p>リーダーシップ 学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる ■ 戦略的イニシアチブを取り、組織変革をリードすることができる
<p>経営における分野別の専門知識 学生は世界各国・地域の異なった文化背景を有しているが、出自のいかんにかかわらず、有能なビジネスマネージャーたりうる基本的な経営知識を習得している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 基本的なビジネス知識に関して十分な理解を有していることを示すことができる ■
<p>テクノロジーとデジタル変革 学生は、最新のテクノロジー要素を適用して、新しいビジネスを創造したり、デジタル変革を通じて組織に競争力のある価値を追加することができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 最新のテクノロジーの動向を理解することができる ■ 適切なテクノロジー要素を用いてビジネスを創出し、組織に競争力のある付加価値を付けることができる ■ 組織的および環境的影響を考慮に入れながらデジタル変革を推進することができる

【履修の方法】

学位		修士（経営学）	
科目区分		科目名	
必修科目 18 単位	基礎科目 12 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネス・コア ・ Python によるデータ分析 ・ データ分析によるビジネス支援 ・ デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル 	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタル・トランスフォーメーションのマネジメント ・ データドリブン組織
	キャップ ストーン 4 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ デジタルビジネスの倫理・法・社会的諸側面 ・ 官民におけるDXの実践 ・ デジタル時代のグローバル戦略 ・ リーダーシップ・ブートキャンプ 	
	リサーチ・ セミナー 2 単位	リサーチ・セミナーⅠ、Ⅱ	
選択必修科目 12 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビジネスのための人工知能 ・ ビッグデータ分析 ・ 企業財務 ・ 技術革新とデジタルの時代における企業戦略論 ・ 顧客関係管理（CRM） ・ データ管理とモデリング ・ デジタル・サプライ・チェーン・マネジメント ・ 起業家精神とイノベーション ・ ファイナンスとフィンテック ・ 財務会計学 ・ 情報政策管理 ・ 投資と機械学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本社会のデジタル・トランスフォーメーション ・ マーケティング・インテリジェンス ・ 新規事業創出とベンチャー ・ レジリエントな情報システムデザインとマネジメント ・ サービス・マネジメント ・ スマートシティ ・ サステナビリティ・トランスフォーメーション戦略 ・ 経営戦略 ・ デジタル・ディスラプションの戦略論 ・ 機械学習とビジネスにおけるテキスト分析 	
選択科目 2 単位	語学科目を除く全開講科目より選択		
修了要件単位数 32 単位及び研究レポート			

●国際社会起業家プログラム（ISEP）

授与する学位：修士（社会起業経営学）

【修得すべき知識・能力】〈学修の目標と目的〉

修士（社会起業経営学）の学位課程では、以下の知識、スキル、学術的態度の修得を学位授与の条件とする。

学習・習得目標	学習・習得後のあるべき能力
<p>多文化・異文化理解と対応能力</p> <p>学生は、世界中のさまざまな背景を持った人々の特性や違いに対して優れた感受性と対処能力を持ち、皆が同意しうる共通目標を確立する能力を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の、それぞれに異なった視点や意見に対して優れた感受性を行動で示すことができる ■ 世界中のさまざまな背景を持った人々の持つ、異なった視点（ときに相対立している場合もある）を前提としつつ、なおも共通して合意できる視点を発見し明確化することができる ■ 多様な国際的背景を持つ人々との適切なコミュニケーションスキルを新たに獲得してゆくことができる
<p>社会的責任意識</p> <p>学生は、関係する個人や集団が賢明かつ社会的責任を熟慮した意思決定を行うように働きかける姿勢を有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会的責任を全うするリーダーシップについての概念と取るべき行動について理解していることを、場面場面における中核的な問題点や論点を明確に指摘することで示すことができる ■ 社会的責任を全うする組織の実現に向け、戦略の枠組みを構築することができる ■ 社会的責任を全うするリーダーシップが、なぜ・どのように、グローバル・バリュー・チェーンの中での主な事業活動において統合化されるべきか、主な理由を挙げて説明することができる
<p>リーダーシップ</p> <p>学生は、ほかの人々と効果的な協働作業を行うことができ、さらに組織全体の目標に向かって動くように他者に影響を与える能力を持つ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ リーダーシップの概念と実際の行動方策についての自分の理解を他者に示すことができる ■ 他者の発言に傾聴し、共感を示すことができる
<p>ビジネスの考え方を組み込んだ社会課題解決策</p> <p>学生は、社会課題を特定した上でその要因を分析し、ビジネスの考え方を組み込んだ持続可能な解決策を確立できる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 社会課題を特定する能力を示すことができる ■ 社会課題の根本的な要因を分析する能力を示すことができる ■ 社会課題の要因に対する新たな解決策創出のために異なる考えを結び付ける能力を示すことができる ■ 社会課題への解決策を持続的に提供していくためのビジネスシステムを構築する能力を示すことができる

【プログラムの特徴】

国際社会起業家プログラム (ISEP) は、社会の様々な課題に対して自ら企業や NPO を立ち上げて解決していくことを志す方、または国際機関など支援組織のプロジェクトを通して、課題解決のための業務を行うことを希望する若者の教育を目的としています。本プログラムは主に海外協力隊 (JOCV) の活動を終えて帰国した方、JOCV に合格した方及び JICA 関連の外国人留学生を対象としています。

プログラム修了後のキャリアとしては、開発途上国や日本においてビジネスや NPO 活動を通じた課題解決に従事する社会起業家、様々な分野の課題を民間セクターとの連携で解決するプロジェクトに携わる国際公務員などが想定されます。

【履修の方法】

学位		修士 (社会起業経営学)	
科目区分		科目名	
必修科目 13 単位	基礎科目 11 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新興市場戦略論 ・ 企業の社会的責任 (CSR) 論 ・ 財務会計学 	<ul style="list-style-type: none"> ・ レジリエントな情報システムデザインとマネジメント ・ マーケティング・マネジメント ・ 経営戦略
	リサーチ・セミナー 2 単位	リサーチ・セミナー I、II	
フィールド・スタディー 4 単位		フィールド・スタディー	
選択必修科目 13 単位		[国際経営学研究科開講科目] <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の農業ビジネスと農政 ・ ビジネスのための人工知能 ・ ビジネスに役立つ意思決定と業績評価 ・ データ分析によるビジネス支援 ・ デジタルプラットフォームとデジタルビジネスモデル ・ デジタル・サプライ・チェーン・マネジメント ・ 起業とベンチャーファイナンス ・ 起業家精神とイノベーション ・ 起業家精神と小事業開発 ・ 国際経営 ・ リーダーシップ ・ デジタルトランスフォーメーションのマネジメント ・ 日本のものづくり経営 ・ 新規事業創出とベンチャー ・ 組織行動論 ・ サステナビリティ・トランスフォーメーション戦略 ・ デジタル産業の世界的展望 ・ ファイナンスとフィンテック ・ スマート・シティ 	[国際関係学研究科開講科目] <ul style="list-style-type: none"> ・ 農業開発と資源収入管理 ・ 開発政策・プログラムの分析 ・ 開発経済学 ・ 開発政策とグローバル化 ・ 対外政策決定論 ・ 国際人権論 ・ 国際機構論 ・ 国際政治経済論 ・ 国際政治学 ・ 日本の国際協力政策 ・ 政策評価論 ・ 政治制度とガバナンス ・ 公共セクターの人的資源管理論 ・ 経済開発における政府と起業家の役割
選択科目 4 単位		語学科目を除く全開講科目より選択	
修了要件単位数 34 単位及び研究レポート			